

皆さん。超短期決戦の総選挙、たいへんご苦労様でした。

*日本共産党は全国的に議席を後退させる、残念な結果となりましたが、沖縄1区・赤嶺政賢さんの「オール沖縄」の宝の議席を守りぬぎ、比例代表選挙で7議席を獲得、近畿ブロックでは、皆さんの力でたつみコータローさんとともに、京都の堀川あきこさんの議席を得ることができたことを、ともに喜び合い、また、心から感謝申し上げます。

そして、全党・後援会の先頭に立って力を発揮していただいた、1区・井坂博文さん、2区・堀川あきこさん、3区・西山頌秀さん、4区吉田幸一さん、5区・山内健さん、6区・上條亮一さんの奮闘に、感謝と労いの拍手を送りたいと思います。

また、本日は党務で参加できませんが、国会対策委員長として長く全党の先頭に立ってこられた穀田恵二前衆院議員への労いの言葉も、改めてこの場で表明させていただきます。

*選挙結果の最大の特徴は、自公の与党が大敗して過半数を大きく割り込んだことです。メディアの出口調査によると、有権者の74%が「裏金問題を考慮して投票した」と答え、自民党は小選挙区で支持層の6割しか固めることができませんでした（「読売」）。

投票が終わった昨日夜8時以降、党本部に「しんぶん赤旗」の申し込みが130人からあり、そのうち、20～30代が41人、40～50代が53人を占めています。本日0時以降の日刊紙・電子版お試し購読も99件にのぼっているとのこと。130人のうち5人は京都の左京・上京・中京・右京・伏見の方です。そのうちのお一人、上京区の50代の女性は、購読理由として「衆院選で共産党が議席を減らしたため。赤旗への深い感謝を示すとともに、今後ますます頑張っていたきたいため」とのメッセージを書いておられます。わずか1日足らずのうちに通常の1か月分に匹敵する党本部への購読申し込みの状況は、まさに、「しんぶん赤旗」と日本共産党が、自公を過半数割れに追い込むことに貢献した、何よりの証明ではないでしょうか。

さらに、京都の自民党議員と統一教会との癒着を反省して、暴露する書籍を8月に発行した、福知山在住の統一協会元幹部が、日本共産党への期待を語った京都民報WEBのインタビュー記事が、今日現在91万回を超えて閲覧され、選挙戦を攻勢的にたたかうことに大きく貢献したことも、加えて報告しておきます。

自公過半数割れで、自民党政治の終わりの始まりを切り開いた日本共産党の役割に確信を持ち、公約実現に力を尽くそうではありませんか。

*自公の過半数割れと、政党間の力関係の変化によって、公約実現の新たな可能性が広がっています。

定数28の近畿ブロックは、自民が前回比2減の6議席、公明は現状維持の3議席、維新は3減の7議席、国民は1増の2議席となり、与党と補完勢力は22議席から18議席に後退。野党は、わが党が現状維持の2議席、立民が1増の4議席、れいわが1増の2議席、計6議席から8議席となりました（保守党と参政党が新たに各1議席）。

京都での前回総選挙と今回の得票率を比較すると、自公合計では39%から30.4%に後退。補完勢力では維新が23.0%から15.7%と減らし、逆に国民民主党が5.1%から9.6%に伸ばしました。わが党は、13.2%から11.9%に後退しました。立憲民主党が13.7%から

18.0%へ、れいわは3.7%から6.3%へ増やしました。比例選出を含む京都の議席の力関係では、自民と補完勢力の側は、自民3→2、維新1で変わらず、国民民主1→0、野党は立民2とわが党1、無所属1となり、力関係に前向きの変化がつけられました。

大切なことは、要求では私たちが多数派だということです。

今回の選挙戦では、日曜版のスクープに始まるわが党の奮闘によって、裏金の原資である「企業・団体献金禁止」が国政の大争点となり、「企業・団体献金禁止」を共通して掲げた野党勢力が与党勢力を上回りました。「野党が本気になれば、企業・団体献金は禁止できる」と、引き続き訴えていきましょう。加えて、政党助成金を原資に「裏公認」の2000万円が支給されたことを暴露した日刊紙のスクープも、自公を追い込む決定的な力になりました。賃上げについては、政策のニュアンスの違いはありますが、野党ばかりか、自民党・公明党も含めて掲げました。選択的夫婦別姓も、核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加など、わが党以外の野党も掲げました。これらの要求、政策は、日本共産党が一貫して掲げ、財源の根拠も示して、国民とともに運動に力を尽くしてきたものばかりです。また、京都の大争点となった北陸新幹線延伸問題も、反対の多数世論を代表してたたかってきたのは日本共産党だけです。

他党にも、公約実現の本気度が問われています。要求実現の国民的大運動と共同の発展に力をつくしましょう。

来年の参院選に向けて、新しく情勢は動き出しています。広い分野で要求運動を起こす先頭に立ち、日本共産党の役割を大いに語って、政党間の力関係を変え、参院選では必ず比例で大きく躍進し、京都選挙区から倉林明子副委員長の3選を成し遂げましょう。

*自公の過半数割れという歴史的激変をもたらすことに大きく貢献しながら、それが日本共産党の得票増に結びつかなかった根本的な要因は、党の自力不足にあります。

前回総選挙以降、党勢拡大に努力してきましたが、わが党にとって死活的課題である党の事業の世代的継承は、まだ途上にあります。この3か月は、読者拡大の上げ潮をつくり出して選挙戦を迎えましたが、前回総選挙時に比べると読者数を減らしています。

この選挙では、若者と現役世代を中心に、数十人のボランティアが選挙戦で力を発揮されました。その中から民青同盟への加盟者も生まれ、10月には25人の新しい同盟員を迎えました。「しんぶん赤旗」への注目と申し込み状況は上述したとおりです。今月も、あと一回りの読者の拡大で増勢に転じることができます。是非、読者を広げることにご協力をいただくとともに、選挙までの約束という方も含めて今お読みの方には購読の継続を、心からお願いするものです。

今回の選挙では、「選挙活動の3つの突破点」に挑みました。それは、①広く不特定多数の有権者に声が届く宣伝、②読者と、ニュースでつながった後援会員さんを対象に、まわりに支持を広げていただくための「折り入って作戦」、③支持拡大のためにも、党や後援会の情報共有のためにもSNSに習熟することです。これらの新しい努力を通じて、確かな手応えを得たのが今回の選挙でした。

自力の問題、選挙方針、いずれの問題でも、なぜチャンスを得票増に実らせることができなかったのか、多くの黨員、後援会員、支持者の皆さんの忌憚のないご意見をいただきながら、しっかりと自己分析を深め、次の躍進にむけて力を尽くします。

以 上